

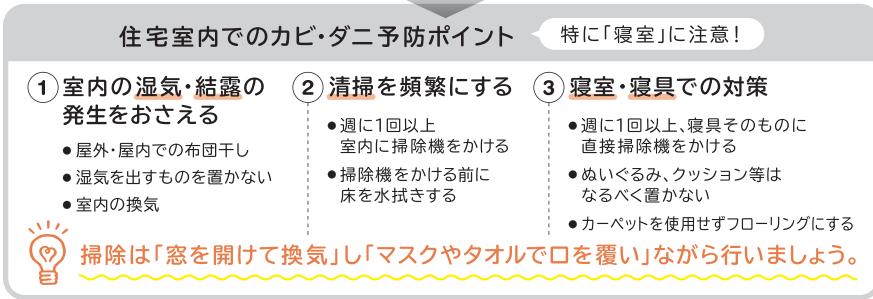
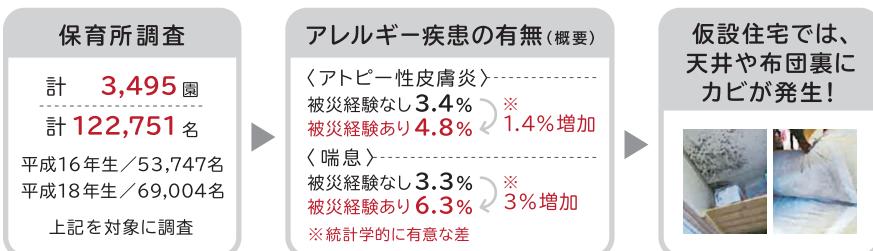


居住空間の湿気や ホコリに気をつけましょう。

調査から分かったこと アレルギー性疾患の有病率が増加

ヘルスケアのポイント 仮設住宅では室内の空気に注意しよう

東日本大震災の被災地域で実施した子どもの調査では、アレルギー性疾患の有病率増加が指摘されています。さらに、男児では被災体験とアトピー性皮膚炎の間に、女児では被災体験と喘息の間に関連のあることが認められました。仮設住宅の設計や入居の際には、室内の「湿気」や「結露」の発生を抑える工夫をしましょう。布団を干す、室内の換気や清掃を頻繁に行う、湿気を出すものを室内に置かない、といった対策も有効です。



※出典

・厚生労働科学研究「気管支喘息に対する喘息死の予防や自己管理手法の普及に関する研究」国立病院機構東京病院 大田健・国立病院機構埼玉病院 釣木澤尚実
・「東日本大震災にみる災害時居住環境を汚染する真菌のアレルギーリスク評価 及び予防衛生管理に関する研究」国立医薬品食品衛生研究所 渡邉麻衣子



指定国立大
災害科学 世界トップレベル研究拠点



災害科学国際研究所
International Research Institute of Disaster Science

災害と健康
プロジェクトユニット